

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2017-190558

(P2017-190558A)

(43) 公開日 平成29年10月19日(2017. 10. 19)

(51) Int.Cl.	F 1	テーマコード (参考)
E 0 5 B 1/00 (2006.01)	E 0 5 B 1/00 3 1 1 L	2 E 0 1 5
E 0 6 B 3/48 (2006.01)	E 0 6 B 3/48	

審査請求 有 請求項の数 8 O L (全 12 頁)

(21) 出願番号 特願2016-78561 (P2016-78561)
 (22) 出願日 平成28年4月11日 (2016. 4. 11)
 (11) 特許番号 特許第6127177号 (P6127177)
 (45) 特許公報発行日 平成29年5月10日 (2017. 5. 10)

(71) 出願人 710010906
 アクシス株式会社
 大阪府大阪市西区南堀江2丁目13番26号
 (72) 発明者 彦坂 尚義
 大阪府大阪市西区南堀江2丁目13番26号 アクシス株式会社 内
 Fターム(参考) 2E015 AA01 BA09 CB05 DA01 EA03
 FA01

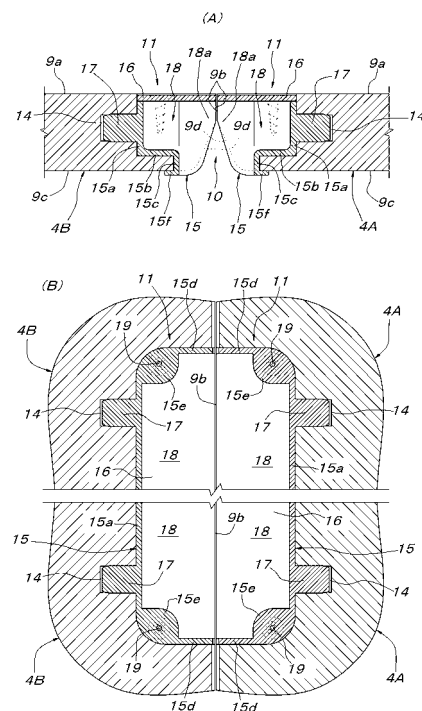
(54) 【発明の名称】 折れ戸用把手

(57) 【要約】

【課題】 建物に作り付けの収納空間や、家具の収納空間を開閉する折れ戸の開閉操作作用として活用出来る折れ戸用把手を提供する。

【解決手段】 少なくとも片側の折れ戸単体4Aには、その内側辺の傾斜面9dから当該折れ戸単体4Aの表面9cにわたって連続する開口を備えた把手埋設用の切欠き凹部が設けられ、把手11は、この切欠き凹部に嵌合固定され、当該把手11には、指先差込み用凹入空間18が設けられ、この指先差込み用凹入空間18は、前記折れ戸単体4Aの傾斜面9dから当該折れ戸単体4Aの表面9cにまたがる開口から当該折れ戸単体4Aの内部に向かって入り込む構成。

【選択図】 図3



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ヒンジにより折り畳み展開自在に連結された 2 枚の折れ戸単体を備え、当該 2 枚の折れ戸単体が 1 つの垂直平面に沿う展開状態にあるときに、当該 2 枚の折れ戸単体の互いに隣接する内側辺間に、外側に開いた横断面 V 字形の凹溝部が形成されるように、当該 2 枚の折れ戸単体の前記内側辺に傾斜面が形成されている折れ戸において、少なくとも片側の折れ戸単体には、前記内側辺の傾斜面から当該折れ戸単体の表面にわたって連続する開口を備えた把手埋設用の切欠き凹部が設けられ、把手は、この切欠き凹部内に嵌合固定され、当該把手には、指先差込み用凹入空間が設けられ、この指先差込み用凹入空間は、前記折れ戸単体の傾斜面から当該折れ戸単体の表面にまたがる開口から当該折れ戸単体の内部に向かって入り込むように構成されている、折れ戸用把手。

10

【請求項 2】

前記指先差込み用凹入空間の開口周縁の内、折れ戸単体の前記内側辺の傾斜面と前記表面とに隣接するコ字形周縁部には、折れ戸単体の前記内側辺の傾斜面と前記表面とに被さる張出し部が形成されている、請求項 1 に記載の折れ戸用把手。

【請求項 3】

折れ戸単体の前記内側辺に切欠き形成される把手埋設用の切欠き凹部は、折れ戸単体の背面側にも開放されたもので、把手は、前記切欠き凹部内に、折れ戸単体の背面と略面に嵌合固定されている、請求項 1 又は 2 に記載の折れ戸用把手。

【請求項 4】

前記指先差込み用凹入空間を形成する把手周壁部の内、折れ戸単体の前記内側辺から当該折れ戸単体内に最も深く入り込んだ奥板部に、折れ戸単体に形成された把手埋設用の切欠き凹部に対する固定手段が設けられている、請求項 1 ～ 3 の何れか 1 項に記載の折れ戸用把手。

20

【請求項 5】

前記 2 枚の折れ戸単体の内側辺それぞれに前記把手が、2 枚の折れ戸単体が前記展開状態にあるとき、各把手の指先差込み用凹入空間の開口端が互いに隣接して、折れ戸単体の表面側から見て 1 つの巾広開口部となるように、同一高さに設けられている、請求項 1 ～ 4 の何れか 1 項に記載の折れ戸用把手。

【請求項 6】

ヒンジにより折り畳み展開自在に連結された 2 枚の折れ戸単体を備え、当該 2 枚の折れ戸単体が 1 つの垂直平面に沿う展開状態にあるときに、当該 2 枚の折れ戸単体の互いに隣接する内側辺間に、外側に開いた横断面 V 字形の凹溝部が形成されるように、当該 2 枚の折れ戸単体の前記内側辺に傾斜面が形成されている折れ戸において、少なくとも片側の折れ戸単体には、前記内側辺の傾斜面から当該折れ戸単体の表面にわたって連続する屈曲開口を備えた把手埋設用の切欠き凹部が設けられ、把手は、この切欠き凹部内に嵌合固定され、当該把手には、前記内側辺の傾斜面と連続する傾斜側板部と、この傾斜側板部から前記折れ戸単体の表面側へ延出する表面板部とが設けられ、この表面板部に隣接するように把手に形成された開口部から、前記表面板部と傾斜側板部の内側に入り込む、指先差込み用の凹入空間が形成されている、折れ戸用把手。

30

【請求項 7】

前記表面板部の、前記内側辺の長さ方向と平行な側縁が、内側に突曲面状に膨出する肉厚側縁部となっている、請求項 6 に記載の折れ戸用把手。

【請求項 8】

把手に形成された前記開口部の、前記表面板部の側縁と平行な開口縁と前記指先差込み用の凹入空間の底面とをつなぐ内側面が、前記凹入空間の底面に近づくほど当該凹入空間の奥側に入り込むように湾曲した凹曲面となっている、請求項 6 又は 7 に記載の折れ戸用把手。

40

【発明の詳細な説明】

50

【技術分野】

【0001】

本発明は、ヒンジにより折り畳み展開自在に連結された2枚の折れ戸単体から成る折れ戸に使用される把手に関するものである。

【背景技術】

【0002】

ヒンジにより折り畳み展開自在に連結された2枚の折れ戸単体を備えた折れ戸は、2枚の折れ戸単体を、その背面が互いに対面するように折り畳んだ折り畳み状態から、当該2枚の折れ戸単体が1つの垂直平面に沿う展開状態に切り換えて、開閉対象の収納空間などを閉じるとき、手の指先などが2枚の折れ戸単体の互いに隣接する内側辺間に挟まれることが無いように、前記展開状態にある2枚の折れ戸単体の互いに隣接する内側辺間に、外側に開いた横断面V字形の凹溝部が形成されるように、当該2枚の折れ戸単体の前記内側辺に傾斜面が形成されている。このような折れ戸を、前記展開状態（閉じ状態）から折り畳み状態（開き状態）に切り換える操作は、片側の折れ戸の前記内側辺に近い箇所を手前に引き出すように操作して、2枚の折れ戸単体を折り畳むことになる。このような操作を行うために、この種の折れ戸では、少なくとも片側の折れ戸単体の内側辺の近くの表面に把手が取り付けられるが、この把手が折れ戸単体の表面にネジ止めするタイプのものでは、傍を通行する人の身体や衣服が把手に引っ掛かって邪魔になるので、特許文献を示すことは出来ないが、折れ戸表面に形成した凹部内に嵌め込んで固定するタイプの把手も知られていた。

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【0003】

上記のような従来の折れ戸用把手を使用するためには、折れ戸表面に、周囲が折れ戸単体の素材によって囲まれた把手埋め込み用の凹部を形成しなければならない。従って、把手の埋設位置が、折れ戸単体の前記内側辺から離れることになり、この把手を利用して片側の折れ戸単体を手前に引き出す操作を行うときに必要な操作力が大きくなる。

【課題を解決するための手段】

【0004】

本発明は、上記のような従来の問題点を解消することのできる折れ戸用把手を提案するものであって、第一発明に係る折れ戸用把手は、後述する実施例との関係を理解し易くするために、当該実施例の説明において使用した参照符号を括弧付きで付して示すと、ヒンジ(3)により折り畳み展開自在に連結された2枚の折れ戸単体(4A,4B)を備え、当該2枚の折れ戸単体(4A,4B)が1つの垂直平面に沿う展開状態にあるときに、当該2枚の折れ戸単体(4A,4B)の互いに隣接する内側辺間に、外側に開いた横断面V字形の凹溝部(10)が形成されるように、当該2枚の折れ戸単体(4A,4B)の前記内側辺に傾斜面(9d)が形成されている折れ戸(2)において、少なくとも片側の折れ戸単体(4A)には、前記内側辺の傾斜面(9d)から当該折れ戸単体(4A)の表面(9c)にわたって連続する開口を備えた把手埋設用の切欠き凹部(12)が設けられ、把手(11)は、この切欠き凹部(12)内に嵌合固定され、当該把手(11)には、指先差込み用凹入空間(18)が設けられ、この指先差込み用凹入空間(18)は、前記折れ戸単体(4A)の傾斜面(9d)から当該折れ戸単体(4A)の表面(9c)にまたがる開口から当該折れ戸単体(4A)の内部に向かって入り込む構成になっている。

【0005】

又、第二発明に係る折れ戸用把手は、ヒンジ(3)により折り畳み展開自在に連結された2枚の折れ戸単体(4A,4B)を備え、当該2枚の折れ戸単体(4A,4B)が1つの垂直平面に沿う展開状態にあるときに、当該2枚の折れ戸単体(4A,4B)の互いに隣接する内側辺間に、外側に開いた横断面V字形の凹溝部(10)が形成されるように、当該2枚の折れ戸単体(4A,4B)の前記内側辺に傾斜面(9d)が形成されている折れ戸(2)において、少なくとも片側の折れ戸単体(4A)には、前記内側辺の傾斜面(9d)から当該折れ戸単体(4A)の表面にわたって連続する開口を備えた把手埋設用の切欠き凹部(26)が設けられ、把手(25)は、この切欠き凹部

(26)内に嵌合固定され、当該把手(25)には、前記内側辺の傾斜面(9d)と連続する傾斜側板部(28a)と、この傾斜側板部(28a)から前記折れ戸単体(4A)の表面(9c)側へ延出する表面板部(28e)とが設けられ、この表面板部(28e)に隣接するように把手(25)に形成された開口部(29)から、前記表面板部(28e)と傾斜側板部(28a)の内側に入り込む、指先差込み用の凹入空間(30)が形成される構成になっている。

【発明の効果】

【0006】

上記本発明の構成によれば、周囲が折れ戸単体の素材によって囲まれた把手埋め込み用の凹部を折れ戸表面に形成すると共に、この把手埋め込み用の凹部に把手の全体を嵌め込んで固定する従来の構成と比較して、把手は、折れ戸単体の内側辺の傾斜面の一部を形成する状態で埋設されるので、その埋設位置は、折れ戸単体の内側辺に接した位置になり、この把手を利用して片側の折れ戸単体を手前に引き出す操作を行うときに必要な操作力が小さくて済むことになる。又、周囲が折れ戸単体の素材によって囲まれた把手埋め込み用の凹部を折れ戸表面に形成しなければならない場合と比較して、折れ戸単体の内側辺に開放された切欠き凹部を形成すれば良いので、折れ戸単体に対する加工も容易になる。

【0007】

上記第一発明を実施する場合、前記指先差込み用凹入空間(18)の開口周縁の内、折れ戸単体(4A)の前記内側辺の傾斜面(9d)と前記表面(9c)とに隣接するコ字形周縁部には、折れ戸単体(4A)の前記内側辺の傾斜面(9d)と前記表面(9c)とに被さる張出し部(15f)を形成して、折れ戸単体側の把手埋設用の切欠き凹部と把手との間の隙間が折れ戸単体の表面側から見えるのを防ぐのが望ましい。又、折れ戸単体(4A)の前記内側辺に切欠き形成される把手埋設用の切欠き凹部(12)は、折れ戸単体(4A)の背面(9a)側にも開放されたものとし、把手は、前記切欠き凹部(12)内に、折れ戸単体(4A)の背面(9a)と略面一に嵌合固定することが出来る。この構成によれば、比較的厚さの薄い折れ戸単体であっても、その厚さを最大限利用して、必要な深さの指先差込み用の凹入空間を形成することが出来る。又、折れ戸単体に対する把手埋設用の切欠き凹部の加工も一層容易に行える。

【0008】

又、前記指先差込み用凹入空間(18)を形成する把手周壁部の内、折れ戸単体(4A)の前記内側辺から当該折れ戸単体(4A)内に最も深く入り込んだ板部(上下方向側板部(15a))に、折れ戸単体(4A)に形成された把手埋設用の切欠き凹部(12)に対する固定手段を設けるのが望ましい。この構成によれば、前記固定手段としてネジを利用する場合でも、当該ネジに対する捻じ込み操作を、折れ戸単体の内側辺の傾斜面のある側から容易に行えるにも拘らず、折れ戸単体の表面側からは、そのネジの頭部などは見えない。又、把手を利用して折れ戸単体を折り畳み方向に引き出すときの操作力は、把手の表面側に被さっている折れ戸単体の表面部材によって受け止められ、固定手段には直接作用しないので、小さなネジを固定手段として利用しても、固定状態を確実に維持し得る。

【0009】

前記2枚の折れ戸単体(4A,4B)の内側辺それぞれに前記把手(11)を、2枚の折れ戸単体(4A,4B)が前記展開状態にあるとき、各把手(11)の指先差込み用凹入空間(18)の開口端が互いに隣接して、折れ戸単体(4A,4B)の表面側から見て1つの巾広開口部となるように、同一高さに設けるのが望ましい。この構成によれば、折れ戸を展開状態から折り畳み状態に切り換えるときは、外側辺が定位置で開閉自在に軸支されている一方の折れ戸単体の把手を利用し、逆に折り畳み状態の折れ戸単体を展開状態に切り換えるときは、ガイドレールに摺動自在に支持されたスライダーに外側辺が開閉自在に軸支されている他方の折れ戸単体の把手を利用することにより、把手に加える操作力を効果的に働かせて、折れ戸の開閉を容易に行える。又、各折れ戸単体に埋設する把手の巾を狭めて小型化しても、折れ戸を展開状態から折り畳み状態に切り換えるとき、両折れ戸単体に取り付けられている把手の開口部が互いに隣接して一体化し、巾広の開口部を形成しているので、指先を何れか片側の把手の指先差込み用凹入空間内へ差し入れる操作が容易に行える。

【0010】

10

20

30

40

50

上記第二発明を実施する場合、前記表面板部(28e)の、前記内側辺の長さ方向と平行な側縁を、内側に突曲面状に膨出する肉厚側縁部(29a)とすることにより、指先の当りが軟らかくなるだけでなく、指先を当該肉厚側縁部に引っ掛けて、折れ戸単体を確実に手前に引き出すことが出来る。更に、把手(25)に形成された前記開口部(29)の、前記表面板部(28e)の側縁と平行な開口縁(奥端板部(28b)の遊側縁)と前記指先差込み用の凹入空間(30)の底面とをつなぐ内側面(湾曲板部(33))を、前記凹入空間(30)の底面に近づくほど当該凹入空間(30)の奥側に入り込むように湾曲した凹曲面とすることにより、把手内の指先差込み用の凹入空間への指先の挿入が無理なく円滑に行える。

【図面の簡単な説明】

【0011】

10

【図1】図1Aは、第一実施例に係る把手が取り付けられた折れ戸を示す概略平面図、図1Bは、同正面図、図1Cは、同折れ戸の一部切欠き拡大平面図である。

【図2】図2は、同折れ戸の把手取付け部分の拡大図である。

【図3】図3Aは、同折れ戸の把手取付け部分の横断平面図、図3Bは、同折れ戸の把手取付け部分の一部切欠き縦断正面図である。

【図4】図4は、片側の折れ戸内側辺の把手取付け部分の側面図である。

【図5】図5Aは、第一実施例に係る把手の平面図、図5Bは、同把手の正面図、図5Cは、同把手の左側面図、図5Dは、同把手の右側面図である。

【図6】図6Aは、同把手の背面図、図6Bは、同把手の背面板取付け位置での横断平面図、図6Cは、同把手の取付け用ダボ位置での横断平面図、図6Dは、同把手が取り付けられる折れ戸の切欠き凹部を示す斜視図である。

20

【図7】図7は、第二実施例に係る把手を取り付けた片側の折れ戸の把手取付け部分の縦断正面図である。

【図8】図8Aは、第二実施例に係る把手の他の取付け方法を説明する分解横断平面図、図8Bは、その把手取付け後を示す横断平面図である。

【図9】図9は、第三実施例に係る把手が取り付けられた折れ戸の要部を示す正面図である。

【図10】図10Aは、同折れ戸の把手取付け部分の横断平面図、図10Bは、同折れ戸の把手取付け部分の縦断正面図である。

【図11】図11Aは、第三実施例に係る把手の平面図、図11Bは、同把手の正面図、図11Cは、同把手の背面図、図11Dは、同把手の縦断左側面図である。

30

【図12】図12Aは、同把手の拡大横断平面図、図12Bは、同把手が取り付けられる折れ戸の切欠き凹部を示す斜視図である。

【発明を実施するための形態】

【0012】

以下、本発明の第一実施例を図1A～図6に基づいて説明すると、図1A及び図1Bにおいて、収納空間1の左右両側の壁板1a、1b間の開口部を開閉する折れ戸2は、互いに隣接する内側辺どうしがヒンジ3によって折り畳み展開自在に連結された2枚の折れ戸単体4A、4Bから構成されている。片側の折れ戸単体4Aは、その外側辺がヒンジ5により、片側の壁板1aに軸支され、他方の折れ戸単体4Bは、その外側辺がスライダ6にヒンジ7を介して軸支されている。スライダ6は、左右両側の壁板1a、1b間に水平に配設されたガイドレール8に摺動自在に支持されたもので、前記ガイドレール8は、収納空間1の天井板の下側、床板の上側、又は柵板の下側などの内の少なくとも一箇所に付設されるものである。

40

【0013】

2枚の折れ戸単体4A、4Bは、図1Cにも示すように、互いに隣接する内側辺と反対側の外側辺が、背面9aに接続する小巾直角面9bと、この小巾直角面9bと表面9cとを、両者間の挟角が鈍角となるように接続する傾斜面9dとから形成されて、図1A及び図1Bに示すように、2枚の折れ戸単体4A、4Bが平面視において一直線状となる展開状態にあるとき、両折れ戸単体4A、4Bの互いに隣接する内側辺間や両壁板1a、1b

50

との間に、外側に開いた横断面 V 字形の凹溝部 10 が形成されるように構成している。これら凹溝部 10 は、この折れ戸 2 を開閉操作する人の指先が、両折れ戸単体 4 A、4 B の互いに隣接する内側辺間や両壁板 1 a、1 b との間に挟まれるのを防止するのに役立っている。

【0014】

本発明の第一実施例に係る把手 11 は上下対称形のもので、図 2 ～図 4 に示すように、同一の 2 つの把手 11 を、折れ戸単体 4 A、4 B の互いに隣接する内側辺に、左右対称形に埋設するために、折れ戸単体 4 A、4 B の内側辺の把手取付け位置には、図 6 D に示す把手埋設用の切欠き凹部 12 が設けられている。この切欠き凹部 12 は、折れ戸単体 4 A、4 B の背面 9 a 側と内側辺（小巾直角面 9 b 及び傾斜面 9 d）側が開放されたもので、折れ戸単体 4 A、4 B の表面 9 c 側には、この切欠き凹部 12 の深さ方向（折れ戸単体 4 A、4 B の左右巾方向）の半分程度をカバーする張出し表面板部 13 が残されている。又、この切欠き凹部 12 の奥端面には、その両端近傍位置から 2 本のダボ孔 14 が刻設されている。

【0015】

把手 11 は、細長い本体 15 と、背面板 16、及び 2 つの取付け用ダボ 17 によって構成され、本体 15 は、2 つの取付け用ダボ 17 が両端部外側に一体成形により突設された上下方向側板部 15 a、この上下方向側板部 15 a から直角に連設された、背面板 16 と平行で且つ背面板 16 の半分程度の中の表面板部 15 b、この表面板部 15 b の外側縁から直角前方に連設された立上り板部 15 c、及び上下方向両端を塞ぐ上下両端板部 15 d から構成され、この本体 15 の各板部 15 a ～15 d と背面板 16 とで囲まれた指先差込み用の凹入空間 18 が形成されている。背面板 16 は、そのコ字形に連続する周縁が本体 15 の上下方向側板部 15 a と上下両端板部 15 d とに当接する状態で、本体 15 の上下方向側板部 15 a と上下両端板部 15 d との間の入隅部に形成された肉厚部 15 e にネジ 19 により固定されている。

【0016】

上記の把手 11 を折れ戸単体 4 A、4 B 側の切欠き凹部 12 内に嵌入させるとき、切欠き凹部 12 側の前記ダボ孔 14 に、把手 11 側の取付け用ダボ 17（必要に応じて接着剤を塗布しておく）を圧入させることにより、把手 11 が折れ戸単体 4 A、4 B の内側辺に沿って取り付けられる。このようにして折れ戸単体 4 A、4 B に取り付けられた把手 11 は、背面板 16 が折れ戸単体 4 A、4 B の背面 9 a と略面一に位置し、本体 15 の外側面は、切欠き凹部 12 の内側面に隣接している。本体 15 の立上り板部 15 c は、折れ戸単体 4 A、4 B 側の張出し板部 13 の端面に隣接している。そして、本体 15 の上下両端板部 15 d の遊側縁は、折れ戸単体 4 A、4 B 側の切欠き凹部 12 の上下両端面における小巾直角面 9 b の側縁と傾斜面 9 d の側縁、及びこの傾斜面 9 d から表面 9 c に至る円弧状の側縁と一致するように形成されている。従って、この把手 11 の内部に形成されている指先差込み用の凹入空間 18 の開口部 18 a は、本体 15 の上下両端板部 15 d の遊側縁と背面板 16 の遊側縁、及び本体 15 の立上り板部 15 c によって囲まれている。更に、本体 15 の上下両端板部 15 d の遊側縁の内、折れ戸単体 4 A、4 B 側の傾斜面 9 d の側縁に隣接する傾斜側縁と、本体 15 の立上り板部 15 c の側縁とを結ぶコ字形周縁部には、折れ戸単体 4 A、4 B 側の傾斜面 9 d と表面 9 c とに被さる、コ字形に連続する張出し部 15 f が一体に連設されている。

【0017】

上記のように把手 11 が取り付けられた折れ戸 2 の両折れ戸単体 4 A、4 B は、折れ戸単体 4 A、4 B の表面 9 c や内側辺の傾斜面 9 d から、把手周囲の正面視コ字形の張出し部 15 f が、その板厚分だけ突出しているだけであり、互いに隣接する両把手 11 の上下方向に細長い開口部 18 a が互いに隣接して、1 つの巾広の開口部を形成することになる。そしてこれら指先差込み用の凹入空間 18 の開口部 18 a の巾は、折れ戸単体 4 A、4 B の内側辺の傾斜面 9 d を正面側から見たときの巾よりも広がっており、その周囲が、把手 11 の張出し部 15 f によってカバーされている。従って、この展開状態（閉じ状態

）の折れ戸 2 を折り畳み状態に切り換えて、収納空間 1 を開くときは、両折れ戸単体 4 A、4 B の互いに隣接する把手 1 1 の開口部 1 8 a から、好ましくは、ヒンジ 3 によって固定位置に軸支されている側の折れ戸単体 4 A の把手 1 1 の指先差込み用の凹入空間 1 8 内に指先を差し込み、その指先を本体 1 5 の表面板部 1 5 b に内側から引っ掛けて、折れ戸単体 4 A を手前に引き出して、ヒンジ 5 の周りに開動させれば良い。。

【0018】

収納空間 1 を閉じるときは、スライダ 6 に軸支されている側の折れ戸単体 4 B の把手 1 1 を利用して、当該折れ戸単体 4 B を展開方向に引くように操作すれば良い。勿論、折り畳み状態の折れ戸 2 の折れ戸単体 4 A、4 B を展開状態に切り換える場合は、把手 1 1 を利用しないで、折り畳まれて手前に V 字状に突出している折れ戸単体 4 A、4 B の突出端を展開方向に引くように操作しても良い。換言すれば、スライダ 6 に軸支されている側の折れ戸単体 4 B の把手 1 1 は、無くすことも可能である。この場合、片側の折れ戸単体 4 A のみに取り付けられる把手 1 1 の指先差込み用の凹入空間 1 8 への指先の挿入を容易にするため、本体 1 5 の巾を大きくして、本体 1 5 の表面板部 1 5 b の巾を確保しながら立上り板部 1 5 c の位置を、折れ戸単体 4 A の内側辺（小巾直角面 9 b）から離して、指先差込み用の凹入空間 1 8 の開口部 1 8 a の巾を広げておくのが望ましい。

【0019】

尚、本体 1 5 にネジ止めされる背面板 1 6 は、把手 1 1 の成形方法によっては、本体 1 5 に一体に成形することにより、無くすことも可能である。又、折れ戸単体 4 A、4 B 側の把手埋設用の切欠き凹部 1 2 内に嵌合させた把手 1 1 を、折れ戸単体 4 A、4 B に固定する固定手段として、把手 1 1 と一体の取付け用ダボ 1 7 と、折れ戸単体 4 A、4 B 側のダボ孔 1 4 とで構成したが、この構成に限定されない。例えば、図 7 に示すように、本体 1 5 の上下方向側板部 1 5 a を、折れ戸単体 4 A、4 B 側の把手埋設用の切欠き凹部 1 2 の内側面に、ネジ 2 0 により固定することも出来る。このようにネジを使用する場合、図 8 A 及び図 8 B に示すように、折れ戸単体 4 A、4 B 側の把手埋設用の切欠き凹部 1 2 の内側面に刻設したダボ孔 2 1 に、ネジ孔 2 2 a が設けられたダボ 2 2 を予め圧入固定しておき、このダボ 2 2 のネジ孔 2 2 a にねじ込み可能なネジ 2 3 を利用して、切欠き凹部 1 2 内に嵌合した本体 1 5（上下方向側板部 1 5 a）を折れ戸単体 4 A、4 B に固定するように構成することも可能である。

【0020】

次に本発明の第二実施例を、図 9 ～図 12 B に基づいて説明すると、把手 2 5 が取り付けられる片側の折れ戸単体 4 A には、図 12 B に示すように、他方の折れ戸単体 4 B と隣接する内側辺から切欠き凹部 2 6 が設けられ、この切欠き凹部 2 6 内に把手 2 5 が嵌合固定される。この図示例では、切欠き凹部 2 6 の深さは、その底面 2 6 a が折れ戸単体 4 A の内側辺の小巾直角面 9 b と傾斜面 9 d との境界と一致する深さであり、この切欠き凹部 2 6 の底面 2 6 a の上下両端角部の内側に、この折れ戸単体 4 A の背面 9 a に貫通する取付け用貫通孔 2 7 が穿設されている。把手 2 5 は、切欠き凹部 2 6 内に丁度嵌合する大きさと形状の輪郭を有するものであって、切欠き凹部 2 6 の上下両側の折れ戸単体 4 A の内側辺の傾斜面 9 d どうしをつなぐ傾斜側板部 2 8 a、切欠き凹部 2 6 の上下両側面に隣接する上下両側板部 2 8 b、切欠き凹部 2 6 の奥端面に隣接する奥端板部 2 8 c、及び底板部 2 8 d から成る、縦長の細長い容器状のものである。

【0021】

前記傾斜側板部 2 8 a は、その外側辺から折れ戸単体 4 A の表面 9 c と平行に奥端板部 2 8 c の方向に延出して、短い表面板部 2 8 e が一体に形成されている。この把手 2 5 を切欠き凹部 2 6 内に嵌合させたとき、当該切欠き凹部 2 6 の周囲の、折れ戸単体 4 A の表面 9 c と内側辺の傾斜面 9 d に被さるように、傾斜側板部 2 8 a の上下両側辺、短い表面板部 2 8 e の上下両側辺、上下両側板部 2 8 b の外側辺、及び奥端板部 2 8 c の外側辺から、正面視でコ字形に連続した張出し部 2 8 f が一体に形成されている。而して、短い表面板部 2 8 e の遊側辺、上下両側板部 2 8 b の遊側辺、及び奥端板部 2 8 c の遊側辺で囲まれた、正面視で矩形状の開口部 2 9 が形成されており、この開口部 2 9 から、上下両側

板部 28b 間の底板部 28d 上を、短い表面板部 28e と傾斜側板部 28a の内側に入り込む指先差込み用の凹入空間 30 が形成されている。尚、短い表面板部 28e の、前記開口部 29 の一側縁となる上下方向内側縁は、内側に突曲面状に膨出する肉厚側縁部 29a となっている。

【0022】

把手 25 の指先差込み用の凹入空間 30 の底面を構成する底板部 28d は、別部材から成る底板 32 と湾曲板部 33 とで構成されている。この湾曲板部 33 は、一端が奥端板部 28c の外側辺につながり、この奥端板部 28c の外側辺から離れるに従って傾斜側板部 28a のある側へ近づくように湾曲し、上下両側辺は、上下両側板部 28b の内側面と一体につながっている。換言すれば、前記開口部 29 の、短い表面板部 28e の側縁と平行な開口縁（奥端板部 28c の遊側辺）と前記指先差込み用の凹入空間 30 の底面とをつなぐ内側面（湾曲板部 33 の表面）が、前記凹入空間 30 の底面に近づくほど当該凹入空間 30 の奥側（傾斜側板部 28a のある側）に入り込むように湾曲した凹曲面となっている。底板 32 は、短い表面板部 28e と傾斜側板部 28a の内側に入り込む指先差込み用の凹入空間 30 を成形するときに必要な内型（短い表面板部 28e と傾斜側板部 28a の内面を成形する内型）を成形後に抜くために、底板部 28d に設けられる開口を閉じるものであって、湾曲板部 33 の側辺に対しては凹凸嵌合構造となっており、傾斜側板部 28a に対しては、当該傾斜側板部 28a の底面側の側辺に形成された段部に嵌合させることにより、底板 32 の位置が決まるようになっている。従って、底板 32 を把手 25 の底面に位置決めした状態で、この把手 25 を折れ戸単体 4A の切欠き凹部 26 内に嵌合して固定すれば、底板 32 が外れる恐れはないが、底板 32 を把手 25 の底面に前以て固定するときは、少なくとも、傾斜側板部 28a の底面側の段部とこれに嵌合させた底板 32 の側辺とを接着剤で固定しておけば良い。

【0023】

把手 25 の上下両側板部 28b と奥端板部 28c との間の入隅部は肉厚部 34 に形成されており、把手 25 を折れ戸単体 4A の切欠き凹部 26 内に嵌合させたとき、この切欠き凹部 26 の底面 26a に設けられている前記取付け用貫通孔 27 と連通するように、前記肉厚部 34 に底面側から取付け用孔 35（ネジ孔としても良い）が設けられている。従って、把手 25 を折れ戸単体 4A の切欠き凹部 26 内に嵌合させた状態で、折れ戸単体 4A の背面 9a 側から、取付け用貫通孔 27 に差し込んだネジ 36 を、把手 25 側の取付け用孔 35 にねじ込んで、把手 25 を折れ戸単体 4A の切欠き凹部 26 内に固定することが出来る。

【0024】

以上のようにして折れ戸単体 4A の、他方の折れ戸単体 4B に隣接する内側辺に取り付けることにより、図 9～図 10B に示すように、両折れ戸単体 4A、4B が展開状態になって、図 1 に示す収納空間 1 が閉じられているとき、把手 25 は、折れ戸単体 4A の表面 9c や内側辺の傾斜面 9d から、傾斜側板部 28a と短い表面板部 28e、及び周囲の張出し部 28f が、その板厚分だけ突出しているだけであり、矩形の開口部 29 が折れ戸単体 4A の傾斜面 9d に沿って開口する状態にある。従って、折れ戸 2 を開くときは、把手 25 の開口部 29 から指先を、傾斜側板部 28a と短い表面板部 28e の内側に延びている指先差込み用の凹入空間 30 内に差し入れ、指先を短い表面板部 28e の内側に引っ掛けて手前に引き出すように操作すれば、折れ戸単体 4A をヒンジ 5 の周りに手前に開動させ、これに併せて他方の折れ戸単体 4B を、スライダ 6 の滑動を伴って、折れ戸単体 4A の内側に重なるように開動させ、折れ戸単体 4A、4B を互いに重なる折り畳み状態に切り換えて、収納空間 1 を開くことが出来る。開いた収納空間 1 を閉じるときは、把手 25 の開口部 29 から指先差込み用の凹入空間 30 内に上記と同じように指先を差し入れた状態で、当該折れ戸単体 4A をヒンジ 5 の周りに開動させれば良い。

【産業上の利用可能性】

【0025】

本発明の折れ戸用把手は、建物に作り付けの収納空間や、家具の収納空間を開閉する折

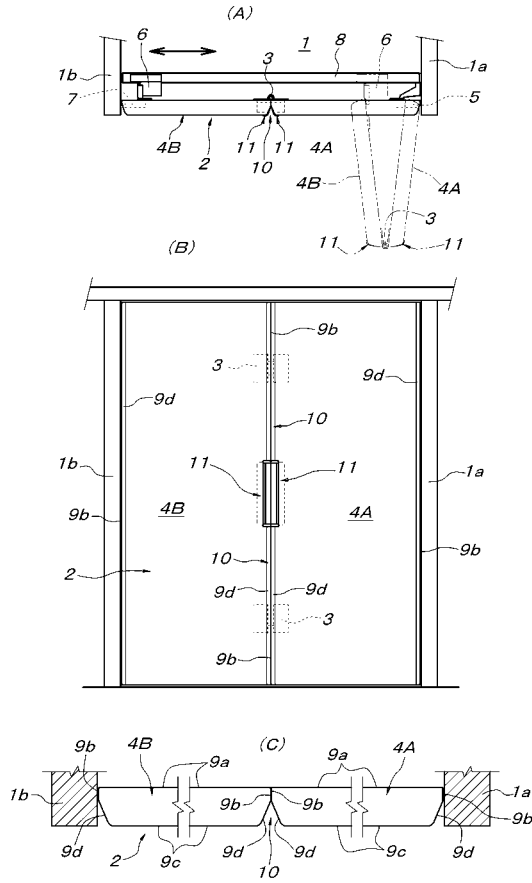
れ戸の開閉操作作用として活用出来る。

【符号の説明】

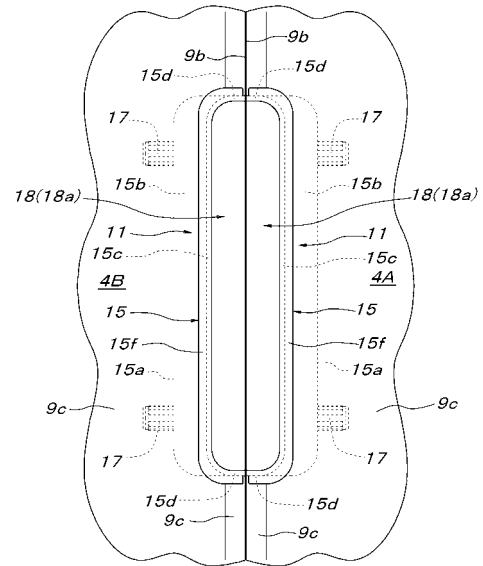
【0026】

1	収納空間	
2	折れ戸	
3, 5, 7	ヒンジ	
4 A, 4 B	折れ戸単体	
6	スライダー	
8	ガイドレール	
9 b	折れ戸の小巾直角面	10
9 d	折れ戸の傾斜面	
10	折れ戸内側辺間の凹溝部	
11, 25	把手	
12, 26	把手埋設用の切欠き凹部	
13	折れ戸の張出し表面板部	
14, 21	ダボ孔	
15	本体	
15 a	上下方向側板部	
15 b	表面板部	
15 c	立上り板部	20
15 d	上下両端板部	
15 e	肉厚部	
15 f	張出し部	
16	背面板	
17, 22	ダボ	
18, 30	指先差込み用の凹入空間	
18 a, 29	開口部	
19, 20, 23, 36	ネジ	
22 a	ネジ孔	
27	取付け用貫通孔	30
28 a	傾斜側板部	
28 b	上下両側板部	
28 c	奥端板部	
28 d	底板部	
28 e	短い表面板部	
28 f	張出し部	
29 a	肉厚側縁部	
32	底板	
33	湾曲板部	
34	肉厚部	40
35	取付け用孔	

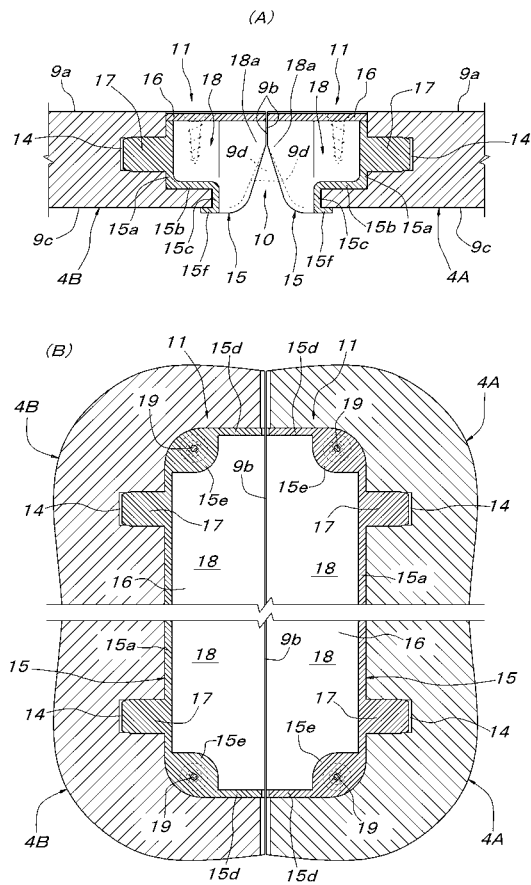
【図 1】



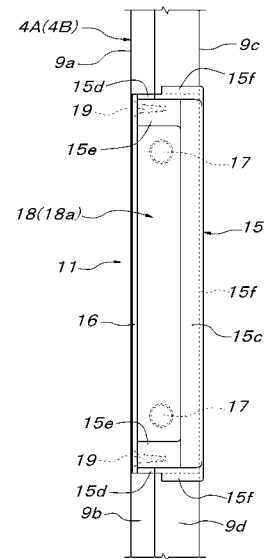
【図 2】



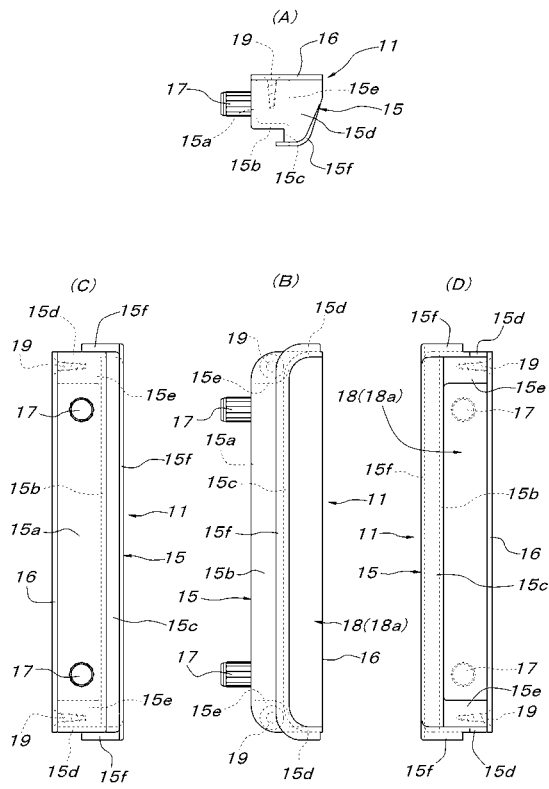
【図 3】



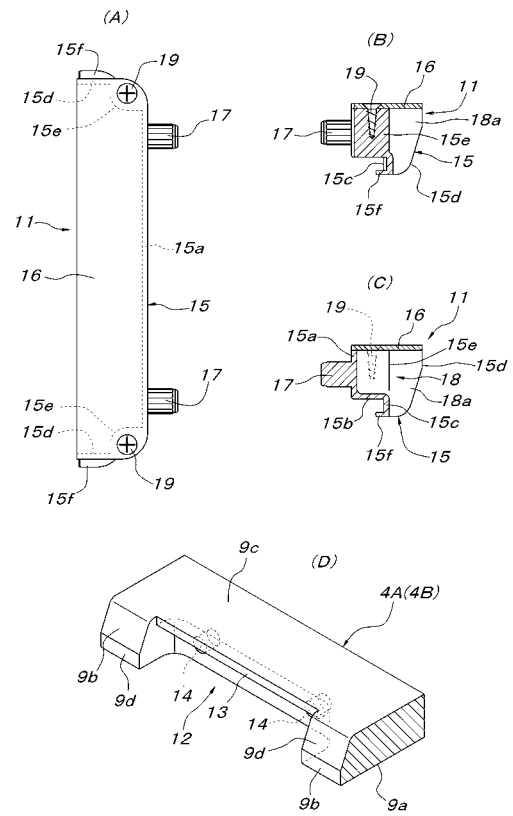
【図 4】



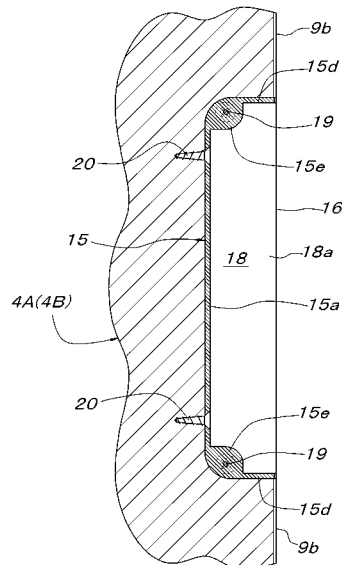
【図 5】



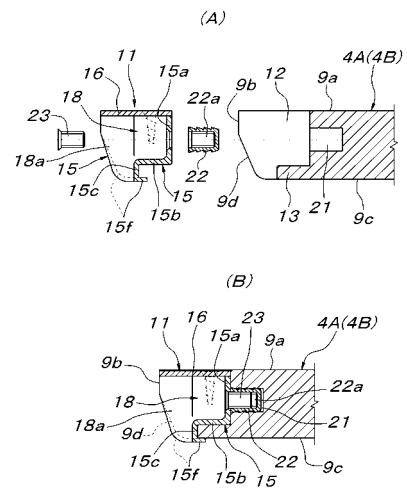
【図 6】



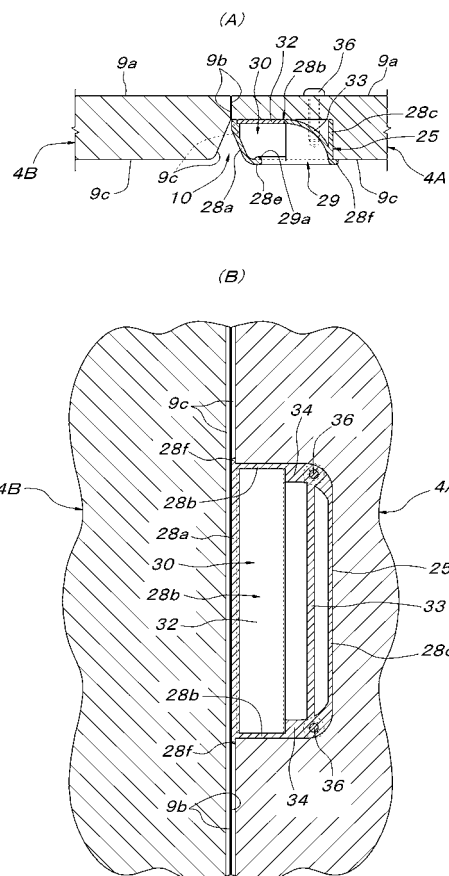
【図 7】



【図 8】



【図 10】



【図 1 2】

